

こっこめ通信 03 2023

「白くなつた八丈島」号



八丈島ではアカコッコのことを親しみを込めて「こっこめ」とよびます。

立春も過ぎ、暦の上では春になりましたが、まだまだ寒い日が続いています。先月にはこの冬一番の強い寒気が南下し、八丈島でも雪が降りました。一面真っ白になったのは、十数年ぶりのようです。島の雪を初体験した子供たちも大勢いたことと思います。朝、近くの学校からは校庭で雪遊びをする子供たちの歓声が聞こえました。

さて今回は「常春の島 八丈の雪景色」と「芝生にいる鳥の群れをよくみてみよう」のお話です。(M.K.)

常春の島 八丈雪景色



ビジターセンター前

1月25日、寒気の南下に伴い常春の島八丈島にも雪が降りました。八丈島で降るのはほとんどが『霰（あられ）』です。でも、今回は雪が舞いました。

夕方から朝にかけて降った雪が降り積もり（と言っても本土に比べたらそうでもないでしょうが…）、朝、窓の外は白銀の世界でした。（大袈裟？）

午前中は粉雪や綿雪など普段は経験できないような雪がこんこんと降っていました。

そんないつもと違う八丈島の雪景色をご紹介します。

ビジターセンターのホームページでも詳しく紹介しているので、ご覧ください。（M.K.）



プラザ公園



咲き始めたカワツザクラ



寒さに堪えるハイビスカス



ストレチアも雪化粧

「アカコッコ」は日本固有のヒタキ科（旧ツグミ科）の鳥で、国の天然記念物に指定されています。八丈島では一年を通して見られ、町の鳥にも選定されています。

芝生に大勢でやってくる地味な鳥を観察したら？

冬に島に渡ってきて春まで滞在してくれる、雀のような色合いで地味な鳥「タヒバリ」という小鳥がいます。タヒバリは群れでやってきて広い芝生の上を歩き回ります。多い時には100羽を超える大群で芝生を占拠することもあります。ここでは、地味な鳥タヒバリと一緒にいる鳥をご紹介します。(M.K.)

☆タヒバリってこんな鳥



タヒバリはスズメぐらいの大きさで、春や秋の渡りの途中による旅鳥です。秋の方が比較的数量が多いです。眼の上の眉線が目立ち、胸から脇に黒い縦斑があります。

園地や草地に群れで降り、虫などを食べている姿をよく目にします。この時、尾羽を上下に振りながら歩く様子は、まさに『セキレイの仲間！』と思います。

よくタヒバリの群れの中には違う種類の鳥たちも一緒にいます。タヒバリたちはそんな種類の違う鳥が混ざっていても気にも止めず、歩き回っています。

ぜひ、タヒバリ1羽1羽をよく見て違う種類の鳥を見つけ出して、観察してみましょう！

☆過去タヒバリに紛れて一緒にいた鳥たちから (★印はよく観察しないと見つけれないかも)



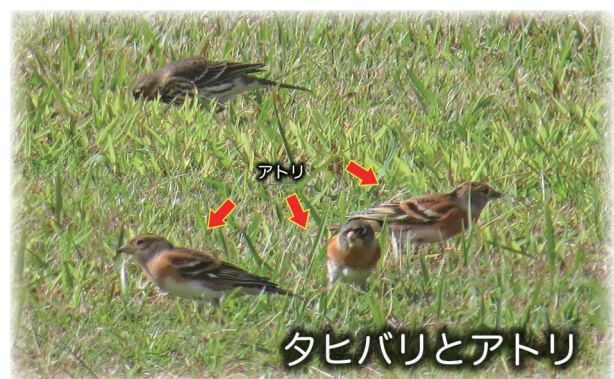
ムネアカタヒバリ



ホシムクドリ
タヒバリとホシムクドリ



タヒバリとヒバリ



アトリ
タヒバリとアトリ



ムクドリ
タヒバリとムクドリ



カワラヒワ
タヒバリとカワラヒワ

八丈植物公園季節調査会の報告

今月の「八丈植物公園季節調査会」は、公園の中央を巡るBコースの4回目です。2月も暖かい日差しの中、3名の参加者と調査を行いました。暖かいとは言っても植物にとってはまだ温度が低いのでしょうか、膨らんだ花芽が開かず、今か今かとその時を待っているようでした。

八丈植物公園季節調査（2022年度第11回） 調査日：2月12日 調査者：青木、青木、沖山、VC木下、VC沖山

①ソテツの築山南側			25	オオアリドオシ	実	59	ヒメユズリハ	実
1	モチノキ雌木	実	26	オオアレチノギク	花	60	フウトウカズラ	実
②芝生広場			27	オオシマカンスゲ	花	61	ヘクソカズラ	実
2	スダジイ	花	28	オオバコ	花	62	ホルトノキ	実
3	ヤマモモ雌木	花芽	29	オオムラサキシキブ	実・新芽	63	ムラサキカタバミ	花
③砂場遊戯車道			30	オニタビラコ	花	64	メヒシバ	実
4	ホルトノキ	実	31	ガクアジサイ	実	65	モチノキ	花・実
④日本の森サクラ広場			32	コケリンドウ	花	66	モッコク	蕾
5	ヤブニッケイ	葉	33	コナスビ	花	67	ヤツデ	実
6	タブノキ	新芽	34	コハクサンボク	新芽	シダ植物		
⑤日本の森アジサイ山			35	コハコベ	花	1	イシカグマ	
7	ミツバアケビ	葉	36	サカキカズラ	種	2	ウチワゴケ	
⑥車道			37	シマクサギ	実	3	オオタニワタリ	孢子囊
8	シマモクセイ雄木	葉	38	シマテンナンショウ	花	4	オニヤブソテツ	孢子囊
⑦車道			39	シマモクセイ	実	5	カニクサ	
9	イヌマキ雌木	葉	40	スズメノカタビラ	花	6	タチクラマゴケ	
⑧メタセコイア植栽地			41	タイミンタチバナ	蕾	7	タチシノブ	
10	ヤマモモ雄木	葉	42	タブノキ	花芽	8	タマシダ	
⑨世界の森			43	チヂミザサ	実	9	トラノオシダ	
11	イヌマキ雄木	新芽	44	ツメクサ	花	10	ナチシゲシダ	
12	モチノキ雄木	花	45	ツルグミ	実	11	ノキシノブ	
⑩ソテツの築山北側			46	ツルソバ	花	12	ハチジョウカナワラビ	孢子葉
13	シマモクセイ雌木	実	47	ツワブキ	実	13	ハチジョウシダ	
14	ハゼノキ雄木	葉	48	トキワハゼ	花	14	ヒトツバ	
15	アオキ	蕾	49	トペラ	実	15	ヘゴ	
16	アオツツラフジ	実	50	ノジスミレ sp	花	16	ホシダ	
17	アオノクマタケラン	実	51	ハキダメギク	花	17	ホラシノブ	
18	アシタバ	実・花	52	ハゼノキ	実・紅葉	18	マツバラン	孢子囊
19	アツバスミレ	種・閉鎖花	53	ハチジョウキブシ	花芽	19	マメヅタ	孢子葉
20	アメリカセンダングサ	蕾	54	ハチジョウシュスラン	実	今回はシダ植物19種を含む86種の植物を観察しました。好天に恵まれ、シジュウカラやメジロ、ヒヨドリが賑やかに飛び回り、スミレ類が沢山咲いていました。		
21	イヌビワ	実	55	ハナイバナ	花			
22	イワニガナ	花	56	ハルジオン	花			
23	ウスベニニガナ	花	57	ヒサカキ	蕾			
24	ウラシマソウ	花	58	ヒノキバヤドリギ	実			

八丈島では、内地と少し様変わりした種や独自に進化した種など、聞き慣れない種があるのが特徴です。今回は、前のページでも紹介した「カワラヒワ」にスポットを当ててみたいと思います。



カワラヒワ

Chloris sinica

アトリ科カワラヒワ属。八丈島では、春に渡って来て島で繁殖するグループと秋から冬にかけて渡りの途中に立ち寄るグループがあるのではないかと考えられています。幼鳥（画像左）は6月頃に見られ、植物公園内でも毎年確認されています。

春先と秋口には園地などの芝生に群れで降り立ち、タヒバリに混じることもよくあります。（H.T.）

2023
3

八丈ビジターセンター プログラムカレンダー

日付の下に書かれている時刻は、八丈島(神湊)の潮の満ち引きの時刻です。
また日付の横は月の満ち欠けです。

日	月	火	水	木	金	土
この色の日は ガイドウォークや 特別行事があります			1	2	3	4 ガイドウォーク
5 ガイドウォーク	啓蟄 6	7	8	9	10	11 ガイドウォーク 特別講演会 「世界に羽ばたけ、 八丈小島のクロアシアホウドリ！」
12 ガイドウォーク 植物公園季節調査会	13	14	15	16	17	18 ガイドウォーク
19 ガイドウォーク	20	春分 21 ガイドウォーク	22	23	24	25 ガイドウォーク 八丈学講座 「大人クラフト 草木染めを楽しもう」
26 ガイドウォーク	27	28	29	30	31	

イベントプログラム

植物公園季節調査会

植物公園内で動植物の調査をしながら季節の変化を一緒に感じましょう！
3 / 12 (13:30～15:00)
中学生以上 ビジターセンター集合・解散 参加費：無料 定員：10名

特別講演会「世界に羽ばたけ、 八丈小島のクロアシアホウドリ！」

樋口広芳博士を講師に迎え、八丈小島のクロアシアホウドリの現状とこれからについてお話いただきます。
3 / 11 (19:30～21:00)
中学生以上 ビジターセンター集合・解散 参加費：無料 定員：55名

八丈学講座「大人クラフト 草木染めを楽しもう」

毎月行っている八丈学講座。スダジイタマバエの虫コブを使って木綿のサラシに絞りを入れ染めます。
3 / 25 (13:30～15:00)
中学生以上 ビジターセンター集合・解散 参加費：無料 定員：10名

植物公園ガイドウォーク

解説員が植物公園内をご案内します。
毎週 土日及び祝日 (10:30～約1時間)
だれでも OK ビジターセンター集合・解散 無料 定員：10名

ビデオプログラム

- 10:00～ 八丈・海・生きものたち
 - 11:00～ おじゃりやれ 八丈島
 - 14:00～ おじゃりやれ 八丈島
 - 15:00～ おじゃりやれ 八丈島
 - 16:00～ 八丈・海・生きものたち
- 当面の間は上記のみの上映になります

東京都八丈ビジターセンター 2023.3.1 第262号

開館時間 9:00～16:45 年中無休 (入場無料)
〒100-1401
東京都八丈島八丈町大賀郷2843
電話：04996-2-4811 Fax：04996-2-4888
E-mail：info@hachijo-vc.com
http://www.hachijo-vc.com

編集後記

去る2月7日にはヒレンジャク・キレンジャク40羽ほどの目撃情報がありました。スタッフが確認したのは20数羽でしたが、ヒレンジャク・キレンジャクは昨年今頃確認されています。これからどんな出会いがあるのか、楽しみです。(M.K.)